

いい表情の子を育む

11月22日、6年生と一緒に鎌倉へ行ってきました。子どもたちにとっては、これが最後の校外学習です。一人ひとりの表情から、心に残る日にしたいという思いが伝わってきました。

この日は、前日まで雨。担任は、コースを変更するべきかどうかと迷っていましたが、せっかく鎌倉まで行くのであれば…と、予定通り「切通し」を見学することにしました。

鎌倉へ到着後、グループごとにスタートです。寿福寺から北条政子の墓・源氏山公園を通過して、化粧坂(切通し)・銭洗弁財天を回って源氏山公園へ戻ってくるコースです。短いコースではありますが、山道なので歩みに差が出ます。よくあるパターンとしては、体力のある子がさっさと山道を上り、他のメンバーを途中で置いてきてしまうことがあります。しかし、どのグループも全員がそろってポイントに到着しました。「全員がそろって」は当たり前のことです。ですが、なかなか難しいものです。子どもたちにとって、「人の歩みに合わせる」ことは簡単なことではないのです。驚いてしまいました。また、たくさんの方がいる中でも子どもはつつい走り回ってしまうことが多いのですが、そのような様子も見られませんでした。めあてにある「小学校生活最後の校外学習を仲間と楽しもう」を体現しているのが伝わってきました。そして、「他者を意識するように」と担任が常に声かけをしていたことが思い出されました。

また、ポイントに立っていただいたボランティアの方々からも、「どのグループも、しっかりとあいさつをしていましたよ」と褒めていただきました。今まで培ってきた力を、学校外で発揮できたことは何よりだと、嬉しく思っています。

この「学校外」というのが、ポイントだと考えています。本校では「あ・さ・ひ」を合言葉にしてあいさつをしようと取り組んでいます。子どもたちは、自分ではあいさつをしていると思っているようです。確かに、廊下ですれ違う時に、「おはようございます」「こんにちは」と声をかけあっています。

ですが、一歩外に出ると違う姿が見えてくるのです。以前、八丁畷駅前前で登校の見守りをしました。残念なことに自分からあいさつをした児童は、ほんの数人です。私があいさつをする時、「おはようございます」と声を出した児童は半分程度です。あとは、下を向いたままだったり、「あっ」という顔をしてそのまま通って行ってしまったりする児童です。もしかしたら、見守りで旗振りをしてくださっている保護者の皆さんも同じように感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

実は、運営委員会の児童も同じように感じています。どのようにしたら、「あ・さ・ひ」が実践できるようになるのかを一緒に考えていきます。そして、学校ではない場所で、生きた力としてあいさつができる子どもたちを育むように努めてまいります。ぜひ、ご家庭でも「なぜ、あいさつをするのか」「あいさつをするよさ」などについて、お子さんと一緒に考えてください。